

ホテルエントランスに吉野松の木組み

浅草の芝居小屋をイメージ

ポラテック

ポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）は、今夏オープン予定の「浅草ビューホテルアネックス六区」のエントランスに吉野松を使った木組みのオブジェを納入した。エントランス2階部分まで達する柱や梁は「江戸後期の浅草の芝居小屋の木造の格子を模しており、当時は格子に幕（ネット）をかけていた。本物にこだわり、設計・施工の大和ハウス工業に相談して、ポラテックを紹介してもらった」と佐藤修日本ビューホテル事業開発室長は経緯を語る。

このホテルは日本ビューホテルの向かいにユ一ホテル（東京都、遠藤建設）が浅草寺藤由明社長）が浅草ビの敷地を借地し、以前

松竹の映画館があった場所に新たなホテルを建設。和をコンセプトに歌舞伎、芝居小屋などを意識した（同）。

浅草六区は建物外観をアールデコ調とすることを考えており、ホテルのエントランスにはアールデコ調のアーチを設け、その内部に吉野松による木組みを設けた。木組みは木材11・33立方尺、内部ツキ板で0・15立方尺を

使用した。

柱は180mm角、梁は150×150、210mmなど。柱間に車が入れるように3845×3200mmのグリッドで柱を9本配置した。

1ドXを使用した。2階の室内の天井から梁が連続するイメージで、室内の梁とエントランス天井の梁がつながるようにデザインした。

園部雅子ポラテック営業本部長は「話をいただいたから約2年、関係者など12人で吉野松を訪問し、現地材を見て決めてきた。木材供給側もかなりプレッシャーを感じて、相当に良いものを入れてもらった」と語る。木材は上大木材が納入した。

柱は同社のプレカット機械に入らないサイズで、すべて手加工した。梁はプレカットで対応した。木組みの施工を担当した工務店の大工とポラスの大工が下小屋で一緒に加工したという。

柱、梁には背割りを入れ、2階のロビーから背割りが見える。背割りがあって本物と分かる」（佐藤室長）。1階レストランに付随した舞台には歌舞伎



吉野松で木組みを設置